

高次脳機能障害地域支援ネットワークシステム

(支援者版)

目的: 高次脳機能障害者が生活しやすい地域づくり

(①見落とさない②見捨てない③見守れる環境づくり)

対象: 原則は60歳以下で社会参加を目指す方。主たる障害名が高次脳機能障害であること。

方法: 各施設の主たる支援者が中心となり連携をとる。登録・協力が得られた施設で運用。

検査結果、情報用紙等、一元化したファイルを送る。

(今後、当事者自身も常に携帯するパスポートを作成していく)

急性期より必要に応じて、高次脳機能障害支援コーディネーター、家族会が介入する

I) 急性期 医療機関(医学的リハビリテーション)

- ① 医師による診察(画像診断、意識障害などを含め判断される)
⇒リハビリ処方⇒連携システム開始
- ② 行動観察 病棟生活・リハビリ場面より評価(別紙参照 急-1 行動観察評価)
- ③ スクリーニング検査 MMSE・FABなど
- ④ 医師から説明 (別紙参照 急-2 生活での留意点)

主支援者

- ・OT・MSW
- ・医療スタッフ

II) 回復期および外来 医療機関(医学的リハビリテーション)

- ⑤ 詳細な検査実施(別紙参照 回-1 検査項目)
- ⑥ 医師から説明 検査結果等. OT・STより生活での留意点説明
- ⑦ 認知訓練・代償手段導入
(別紙参照 回-2 訓練経過報告書)
- ⑧ 経済・社会制度(別紙参照 回-3)
- ⑨ 地域福祉施設への移行準備 生活評価表(別紙参照 回-4 チェックリスト)

主支援者

- ・OT・MSW
- ・医療スタッフ

III) 地域・就労(社会的(生活)リハビリテーション)

- ⑩ どの施設を選択・利用するか(別紙参照 地-1 施設選択シート)
社会的リハ(生活リハ)、居場所、職業評価、職業リハ、福祉就労、一般就労、家族会、県相談会

主支援者

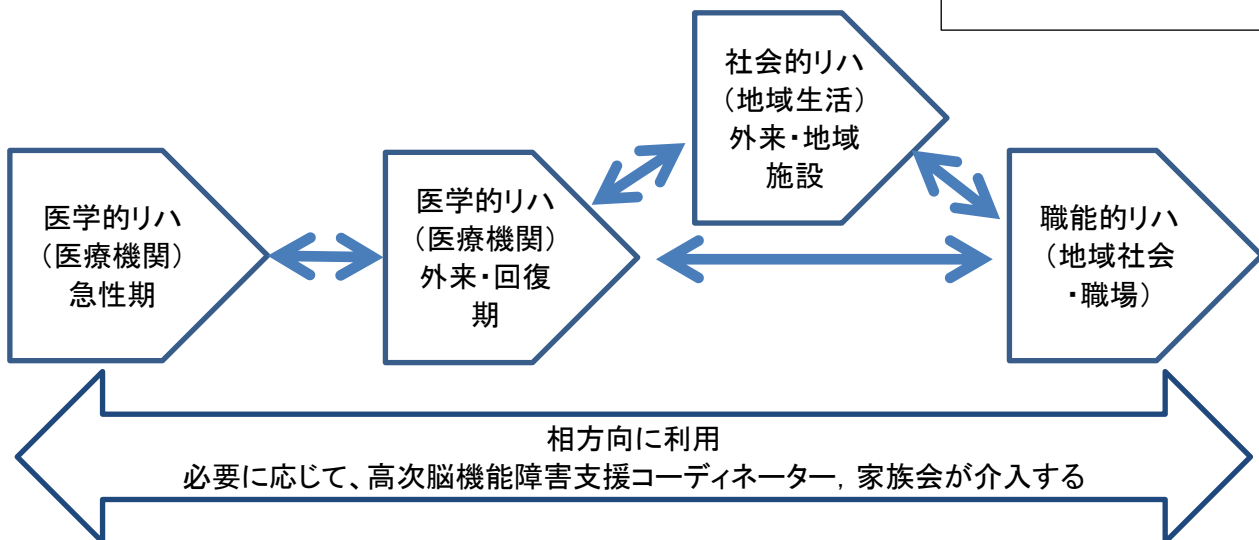
- ・OT・MSW・施設スタッフ
- ・コーディネーター

IV) 就労・就労継続(職能的(職業)リハビリテーション)

- ⑪ 就労後、継続支援(別紙参照 就-1 就労継続支援チェックリスト)

主支援者

- ・施設スタッフ・ジョブコーチ
- ・コーディネーター



いつでも相互に利用可能なネットワークシステム